



学科長対談

看護学科 学科長 二村 良子 (右)
臨床検査学科 学科長 高崎 昭彦 (左)



司会 本日はよろしくお願いいたします。

まずはお互い自己紹介をお願いしますでしょうか。

二村 はい。看護学科学科長の二村良子と申します。

専門は母性看護学、助産学です。

高崎 臨床検査学科学科長、高崎昭彦と申します。臨床生化学を専門にしております。

司会 それでは両学科それぞれの特徴をお聞かせください。

二村 看護学科は、看護師、保健師、助産師を目指す学生が、4学年全体で400名程度在席しています。出身地別に申し上げますと三重県内の方が70パーセントぐらい。愛知県が20パーセント、その他が10パーセント程度となっています。

学修面については、さまざまな学外実習が特徴的だと思っております。第一に市立四日市病院など大規模な総合病院で実習を行っている点です。また、産業看護にも力を入れていますので、企業での実習についても十分な体制が整っています。昨今注目されている在宅医療の分野においても、包括ケアシステムの整った市内各施設で実習を行っています。

学内では研究セミナーや研究演習、各領域の演習において小グループでの学びをできるだけ多く取り入れるようにしており、学生間での話し合いを軸に互いに刺激し合って知識や技術の習得を深めていることが一つの特徴だと思っております。学生にはこのような臨地実習・研究演習を通して、主体的に学ぶ力を身につけ、専門職である看護職の基礎を形成しながら学びを深めてもらいたいです。

また、学生の相談窓口のひとつとしてアドバイザー制度を設けており、一人ひとりに対してきめ細やかなサポートをするように心がけています。

さらに本学は、四日市市と協力し育成会奨学金(各学年30名)を設けています。学費の負担を少なくすることで勉学に専念できるともいいシステムだと考えております。

高崎 しっかりとサポートされているのですね。

私たち臨床検査学科は3年前に新設されました。臨床検査技師を養成する学校は他にも多くありますが、本学は東海地方では初めての文部科学省指定校としてスタートしました。特徴として、まずカリキュラムが臨床検査技師資格取得に向けて特化した科目を設定していること、また、教員・教育の質の部分でも一定のハードルをクリアしなければ指定校として認められることはありません。指定校としてのメリットとして、どの学生も2カ所の施設で臨地実習を受けることができ、視野を広げることに繋がっています。

さらに、様々な資格取得や知識の修得を目指し、幅広い分野を学べるようなカリキュラムとしています。

また、これも東海地方の大学として初めて「細胞検査士」資格を在学中に取得することができるコースを設けました。その他にも、「健康食品管理士」や「バイオ技術認定試験」などさまざまな資格取得を積極的に支援しています。

そして、2学科であることの特性を活かして看護学科の先生にもご協力いただき、看護や介助技術を学べるようにしています。これは私自身、医療現場で従事していた

時に最も苦勞した部分で、その経験から本学科の卒業生が将来働く際に、臨床検査技師としての知識だけでなく患者様の気持ちに寄り添える医療従事者になって欲しいとの思いから始めたことです。

司会 次に国家試験対策、就職状況について伺います。

二村 看護学科では看護師以外にも保健師、助産師のダブルライセンス取得を目指すことができます。その準備段階として、1年生の前期から看護学生スタートアップテストなどを行いながら国家試験対策を始めています。そして、2年次以降、模擬試験や特別講座を定期的に関講しております。また、キャリア支援委員会という国試・就職対策に特化した委員会があり、そこから上がってくるレポートを学科全体で情報共有し、対応しています。例えば、1カ月ごとに学修プランを策定するなど習熟状況に応じた個別対応を行うことで、きめ細やかな学生指導ができていていると思っています。

昨年度の就職結果についてお話しすると、就職希望者は就職率100パーセントで、概ね志望した就職先へ合格をしています。学生自身の努力が一番の大きな要因ですが、面談を通じて働きたい就職先について学生と考え、志望理由書や面接試験の指導に力を入れている結果でもあるのではないのでしょうか。

令和3年度卒業生の就職先は、市立四日市病院が最も多く、その他三重県立総合医療センター、三重大学医学部附属病院、みたき総合病院などにも就職しており、三重県内に3分の2程度が就職する結果となっております。現在、令和4年度卒業予定者についても、ほぼ全員の就職先が決定しています。(令和4年12月6日現在)

司会 臨床検査学科は、今年で開設3年目ということですが4年生はいませんが、どのような取り組みをされていますでしょうか。

高崎 臨床検査技師の国家試験の全国平均の合格率は7割程度となっており、かなり力を入れてやらないと全員を合格させることは難しいと思っています。もちろん、全員合格を目標として、様々な取り組みを行っています。

まず、1年生には入門編としてクイズ形式などを取り入れ、とにかく国家試験問題に触れてもらうよう工夫しています。そこから学年が上がるにつれて徐々に専門性を高め、難易度を上げていく中で国家試験にしっかりと向き合えるよう指導しています。また、本学のカリキュラムでは、講義科目に関しては臨地実習へ行く前にある程度終了しています。これは、国家試験対策を専門的に集中して行うためです。4年生については塾あるいは家庭教師のようなイメージで、全教員が各学生の指導にあたるよう現在準備中です。

就職については、病院の臨床検査技師の募集は毎年行われるわけではなく、欠員補充が一般的です。そのため、就職活動のスタートも一定ではありません。学生には臨

地実習先について、ある程度、就職を視野に入れた施設を希望するよう指導しています。実習だけでなくインターンも兼ね、自己PRにもなるわけです。

二村 良い取り組みですね。

高崎 ありがとうございます。

また、就職先は、病院だけではなくありません。今、PCR検査で大活躍の検査センター、それから、健診センター、研究施設、保健所等多岐にわたります。就職先の視野を広げるのも私たち教員の役割だと認識し、日々学生に接しています。就職対策として履歴書の書き方や模擬面接も行っています。これは看護学科と同様の取り組みになるかなと思っています。

少し違うところは、先ほど申し上げたように就職活動時期が一定ではないため、早い時期から行っているところでしょうか。4年生になったらすぐに就職試験という場合もありますので。

司会 ありがとうございます。では、お互いの学科の印象をお聞かせください。

二村 看護学科に比べると、やはり学生の定員数が少ないからか教員と学生の距離感は近いように感じています。また、私が講義でグループワークを行った際に、さっとグループができて、それぞれがその役割をスムーズに決めることができていました。これは、学生同士もお互い普段から良い距離感で過ごしているからではないのでしょうか。こちらから指示を出さなくても、自分たちで議論し、それを形にする工程がとてもスムーズですごいなあと感じていました。とても楽しそうに、あうんの呼吸でやっているかなと感じます。

先生方が学生の名前をほとんど全員覚えてらっしゃることにも感心しています。私たちは、1学年の学生数が100名を超えていることもあってなかなか覚えられなかったりするのですが、臨床検査学科の先生方を拝見していると、廊下ですれ違ったときにも声を掛けたりされるので、そういう学生と教員との関係が親しいからこそ、何でもお互いに刺激し合ってできるのかなという印象を持っています。私たちにしてみたら、うらやましいなという感じがしますね。

先ほど、高崎先生から就職や国家試験のお話を伺った時に、良好な関係性を築けているからこそ、目標に向かって一体感を持って挑戦できるのではないかと思います。そのような環境は、学



生にとって非常に心強いと思います。もちろん、私たちも同様の気持ちで学生に接しています。

高崎 たくさんお褒めいただき、うれしいです。

私から見た看護学科の学生の印象は、一言で言えば真面目だな、と。講義もしっかりと聞いてくれて、みんな熱心にノートをとってくれています。ポイントの部分などは特に真剣に、全体的に集中してくれていると感じる一方、メリハリがしっかりしているなという印象です。

二村 みんな真面目ですよ。

高崎 はい。あと、先生方も同様に真面目だなと思います。委員会活動と一緒に会議をしたり、プロジェクトを進めたりする際に、すごく一生懸命やっていただけて。とてもありがたいことです。

役割分担ももちろん重要だと思いますが、誰かに押し付けたり人任せにせず、まさしく「One Team」で取り組もうとする姿勢は、新学科の教員として後から来た我々がスムーズに本学に馴染むことができた大きな要因だったと思います。まだまだ分からない事も多いのですが、本当に親切にさせていただいていつも助かっています。

二村 いえいえ、こちらこそ助かっています。

司会 それでは最後に、今後の四日市看護医療大学についてお聞かせ下さい。

高崎 コロナ禍の影響で、勉強以外のサークルやイベント活動がちょっと元気がないですよ。僕はずっと野球をやってきたので野球サークルがあったら楽しいだろうなと思っています。あと、大学祭も開催したい。

二村 大学祭もコロナ禍前は、けっこう盛大に開催していたのですけれどね。

高崎 もう一度、盛り上げたいですよ。

あと、趣味でギターを弾いていますので、バンドも作りたいなと思っています。とにかく大学を今以上に元気で明るくしたいんです。

二村 わあ、素晴らしい。

高崎 両学科の学生が一緒になって活動できる機会をどんどん作ってみたいです。

二村 いいですね、元気な大学。勉強の部分でやる事が多く、みんなちょっと疲れてしまっていると思うので学生同士のつながりは大事だと思います。大学祭の開催も賛成です。ただ、コロナ禍でこれまでのノウハウが継承できなくなってしまったので、もう一度ゼロからイベントを立ち上げるには相当パワーがいるでしょうね。

高崎 確かにそうですね。イベントのノウハウという点については、今年、トナリエ四日市で健康フェアを開催しましたので大学祭でも活かせるのではと思っています。具体的には、健康推進イベントとして、一般の方に向けて健康測定を実施したり、臨床検査技師についてのPRを行いました。もちろん、企画、運営は学生主体です。

二村 それは頼もしい。次年度に向けていろいろと働きかけていきたいと思います。

高崎 授業のことに目を向けると、現在も共通科目は多いのですが、もっと増やしていければと思っています。先ほども申し上げたようにいろんな視点からいろんな知識を持った医療従事者になってほしいので。

二村 そうですね。看護師でもある程度検査値を読むことができると、より患者さん目線で仕事をすることができると思っています。

高崎 私もそう思います。あと、同じ授業を受けていくことで学生同士の学科を横断した横のつながりもできます。そういった関係性って卒業後に仕事をしていく中で、お互いが困った時に助け合うこともできると思うんです。

二村 それ、大事ですね。

もう一つ私が感じているのは、コロナ禍を経験したからこそ得られた様々な教育方法をもっと活用すべきだと思っています。今回確立できた学修方法と従来のものを組み合わせ新しいスタイルを構築、実践していければ。例えば、看護なら看護の実践能力を高めるために、リモートやモデル人形を使った演習、または実習をうまく組み合わせたいかなど。そうして看護を実践できる力をしっかりと身に付ける。その上で自己で考え、看護を実践していくことのできる自律性、オートノミーという力をこの大学では身に付けてほしいと考えています。

そのためにも先ほど高崎学科長が仰ったように、両学科でお互いに刺激し合いながら成長をしていけたらと願っています。

高崎 ここ数年で従来では考えられなかったスタイルが生まれました。リモート講義・実習などがその代表例ですが、それにプラスして更にDX化を進めていければと思っています。そして、二村学科長が言われる自律する力をしっかりと育てていくことももちろん重要です。それは技術の進歩に臆せず、しっかりと自分自身をアップデートしながら成長を続けられる人だと思うんです。医療現場では次々と新しいテクノロジーが投入されていますので、そのような人材を輩出することが本学の使命であると考えています。

二村 本当にそう思います。本学での学びを通じて医療の現場へ大きく羽ばたいて行って欲しいです。

司会 二村先生、高崎先生本日はありがとうございました。

二村・高崎 ありがとうございました。





令和4年度 入学式

4月2日（土）に令和4年度の入学式を挙行了いたしました。
 今年度も、学科・研究科別での式典実施、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用の徹底などポストコロナ社会でのニューノーマルを実践しながらの入学式となりました。また、喜岡理事長からの祝辞、柴田学長からの式辞を聞く新入生のまなざしは希望に満ちており、新生活への期待に胸を膨らませている様子が見受けられました。式典の最後には臨床検査学科・看護学科・看護学研究科それぞれの代表者により宣誓が行われ、医療従事者を志す事への決意が述べられました。
 最後になりますが、新入生の皆様のご入学を教職員一同心より歓迎いたします。

教員からのメッセージ

講師 高塚 麻由

●プロフィール/自己紹介
 2013年四日市看護医療大学大学院修士課程修了
 臨床、教員の経験を経て、本年より本学に着任。
 生まれは新潟、育ちは横浜。
 趣味は、カフェでおいしいコーヒーを飲みながら本を読むことや自然を味わうドライブです。
 どちらも日常から少しだけ離れ、新しいことを発見したりでき、よい気分転換となっています。

令和4年6月に着任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

さて、現在3年生は看護学実習の真っ最中。コロナ対策で臨床実習を行うことができなかった学生たちも、今回は病棟に出向き看護を学んでいます。実習目標を立て、具体的な内容を考え、そして指導スタッフや患者さんにご挨拶。とても緊張しますが、目を輝かせ非常に集中して取り組んでいますので、是非ご紹介させていただきます。

私が担当している母性看護学実習は、出産し子育てをする女性の看護を主に学ぶところです。外来では妊婦健診に来られた妊婦さん、病棟では出産される産婦さん、そして産後の褥婦さんと赤ちゃんの看護を学んでいます。生まれたばかりの赤ちゃんはかわいらしく、周囲の大人はそれだけで幸せになりますが、学生たちはさらに、母親がわが子に向ける際のやわらかい表情もよく捉え、母と子が織りなすやり取りの重要性も学び取っています。

学生が自分の母親について「実習中、気を遣って声を掛けてくれる」と嬉しそうに話していました。母親の存在の大きさをあらためて感じる実習にもなっているようです。ご家族の皆さま、どうぞ応援をよろしくお願いたします。



学友会 新入生歓迎会



4月4日（月）に学友会主催で新入生歓迎会を行いました。看護学科と臨床検査学科が別教室で行い、学友会ではない先輩も参加してくれました。

クラブ・サークル紹介や、アイスブレイクやビンゴ大会など、同級生や先輩方と話しながら楽しんでいる姿が見られ、最初は緊張している様子でしたが、最後には明るい雰囲気となりました。

短い時間ではありましたが、先輩方や4年間一緒に過ごす同級生と打ち解けることのできる機会となったことを願うばかりです。



● 6月11日(土) 令和4年度 教育後援会役員会・総会

役員様におかれましては、職務を引き受けていただき、また役員会にご臨席賜り厚く御礼申し上げます。本会は役員様のご尽力により運営させていただいております。

さて、昨年に続き今年度も感染症の影響により、大学での総会開催は控え役員会のみ集合形式で実施し、総会においては書面決議を行うことで承認されました。

大学側の顧問及び事務局としましても、コロナ禍での役員会ということもあって限られた時間ではありましたが、加藤会長をはじめ役員様に直接ご挨拶ができたこと、貴重なご意見を伺えたことが大変有難く、感謝の想いしかありません。また、書面決議を余儀なくされた総会でしたが過半数以上の方々にご返信いただき、関心を寄せていただけることに感謝致しますとともに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

引き続き教育後援会の運営に何卒、ご理解の程よりしくお願い申し上げます。

教育後援会 事務局



● 10月1日(土) 令和4年度 父母等懇談会



10月1日(土)教育後援会主催の父母等懇談会を開催いたしました。

午前臨床検査学科、午後看護学科と学科別に行い、両学科合わせて100名の父母等の皆様に参加いただきました。この場を借りて教職員一同、深く御礼申し上げます。

当日の全体説明会では、学長、教育後援会会長の挨拶、学科長による教育の取り組みについて説明をさせていただきました。

その後、アドバイザー担当教員等との個別面談を実施いたしました。1組15分程度の面談ではありましたが、多くの父母等の皆様から学生生活の状況を知る良い機会になったと感想をいただきました。

また、全体説明会の質疑応答やアンケートでは、臨地実習、国試対策、就職、学生行事等多くのご意見を頂戴いたしました。お預かりしたご意見を学生支援に活かせるよう、教職員一同精進してまいります。今後とも暖かなご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

看護学科

臨地実習について

看護学科講師 増田 由美

小児看護学実習では市内の急性期病院小児病棟とNICU/GCUで見学実習を行っています。コロナ禍で、実際にケアを行うことはできませんが、入院中の子どもを受け持たせていただきカルテや見学した情報をもとにアセスメントし、自分たちの行う看護を計画しています。そして、人形を操作したり教員や指導者さんが子どもやお母さんに扮したりして、実際に近い状態の看護ケアをロールプレイし、臨床の看護師さんに指導してもらいます。シナリオはないので、学生の介入に思わぬ反応を子どもやお母さんが示すこともあり、臨床ならではの緊張感に満ちた体験ができると感じています。

この日は新生児期から幼児期までの発達段階に合わせ、実際の医療機器をお借りし、学生はぬいぐるみやシールを使ったり、手作りの温かみのある媒体を準備して取り組みました。そしてその媒体を看護師さんを通して子どもやご家族にお渡しした時の嬉しそうな様子に触れ、看護の喜びを体感しました。



看護実習
体験記

基礎看護学実習Iを終えて

看護学科一年 高見 彩月

私は、医療従事者の仕事内容や患者さんの過ごす環境、患者さんとのコミュニケーションの仕方などに注目して病院見学を行いました。今まで病院に行っても自分が患者だったため、気づくことができなかつた患者さんのための工夫に気づくことができ、学びの多い実りのある時間を過ごすことができました。病棟見学では、実際に授業で学んだ原理・原則に基づき、患者さん一人ひとりに合わせて使用するものを変えるような工夫がみられました。今までは教科書で学んだ内容や演習での体験が看護のイメージでした。しかし、実際の現場を見学すると、今まで学んだ知識を現場でどう生かすのか、それが看護では大切になってくるのだと感じました。そのため、基礎看護実習Iでの学びを生かして、これからさらに看護の知識を身に着け、生かせるようにしたいと思います。

臨床検査
学科実習で
学んでほしいこと、
忘れないでほしいこと

臨床検査学科実習委員会委員長・教授 千原 猛

実習（学内実習、臨地実習）とは、講義等で学修した知識や技術を、実習室や臨地実習先病院で、実際に体験し、さらにより実践的な知識や技術を得る時間であると考えています。またこの実習には、コミュニケーション能力を養い、言葉づかい、服装などの基本的なマナーを身につけることも含まれています。

本学科の実習は、1年生前期の解剖組織学実習から開始されます。多くの学生はその時初めて白衣に腕を通し、身が引き締まる思いで実習に臨んだことでしょう。3年時の臨地実習宣誓式では、命の尊さを託したろうそくの灯を胸に、臨床検査技師の道を歩み続ける決意を新たにしたいと思えます。その時の気持ちを忘れずにいてほしいと願います。実習で学ぶこと全てがこれからの糧となり、臨床検査技師になるための自信へと繋がっていくことでしょう。

本年の客観的臨床能力試験(OSCE)では、1、2年時の実習では想像がつかないほどに知識、技術が向上している3年生を見ることができ、その成長した姿に感動しました。これからも教員全員、全力で実習指導を行っていきます。

臨床実習
体験記

臨床検査学科三年 加藤 遥

約3か月の臨地実習を終えて、臨地実習での大きな目的である臨床検査技師という職業を実際に体験することができました。しかし、それ以上に病院での実習は、現時点での自身の知識やその他の能力を試し、何が足りていないかを確認できる貴重な期間でもありました。私たちの最も近い目標のひとつは国家試験の合格でありそのために必要なことは何かを考えることができました。知識面だけではなく、患者さんへの実際の接遇、病院のスタッフの方々とコミュニケーションをとりながら、貴重なお話を聞かせていただき、様々な状態の患者さんに対して、一人一人に自分がどのような声掛け、対応ができるのかなど、学内実習では得られない経験ができました。

令和4年度 社会貢献活動

公開講座

より良い眠りのために
～より良い眠りのための体のメンテナンス～

令和4年8月18日（木）に令和4年度公開講座を実施しました。今回は母性看護学領域教員による「より良い眠りのために～より良い眠りのための体のメンテナンス～」をタイトルに講演、演習（体操・ストレッチ）の二部制に分けて行われました。

参加者からは、「呼吸法とストレッチが大変参考になった。」「眠りの大切さがわかった。不眠が肥満の原因になるとのことなので気を付けたいと思います。」とのご感想を頂戴しました。今後も、地域に開かれた大学として地域貢献活動を継続してまいります。

高齢者向け
生涯学習プログラム

担当 小児看護学領域教員
内容 車いす講座 / 実体験
会場 四日市看護医療大学
日時 令和4年12月13日(火)13:30～15:00

車いす介助・乗車体験 — いざという時のために —
押してみても、乗ってみても身体で覚えるやさしい乗り心地



●災害対策について

災害対策チーム長 多次 淳一郎

本学では今年度より今後発生する可能性のある災害に対し万全の準備を行うため、危機管理委員会直属の災害対策チームを設置いたしました。

最初の仕事として、コロナ禍により過去数年中止されていた防災訓練を実施いたしました。

午前・午後の2部に分けて行われた訓練では、「発災15分以内に一時避難場所（グラウンド）に避難し、安否を確認する」ことを目標とした計画を立案し入念に準備を進めました。

結果として避難自体は2部とも15分以内に完了したこと、Webでの確認に回答した不在者を含め91.1%の在籍者の安否を確認することができたことについては一定の評価を与えても良いのではないかと考えております。

一方で、避難の際限られた出口に人が集中するなど想定外の事態も発生し、今後の課題についても確認することができました。

今回の訓練で得られた知見を活かし、不測の事態が発生しても在籍者の命を守ることができる体制づくりにこれから取り組んでいく所存です。



●感染対策について

感染対策チーム長 山口 央輝

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策を始めてから3年になろうとしている。発生当初、COVID-19については感染経路すら明らかとなっておらず、対策も何をすればよいのか手探りだった時期から、感染対策を行ってきた。それらの感染対策は全て基本的なものではあるものの、多岐にわたる。以下、主なものを列記する。

基本的な感染対策【不織布マスク着用、手洗い（手指消毒）、ゼロ密を目指す、換気、ソーシャルディスタンスの確保、黙食、体温体調チェック】を推奨しながら、緊急事態・緊急措置宣言下や濃厚接触等により登学できない場合の遠隔講義対応を行うと同時に、環境整備として、クラスター発生場所として可能性の高い場所における感染対策の施行、手洗い場でのペーパータオルの設置、出入口の非接触検温器の設置、各教室へ手指消毒液を設置した。また、近接する席間や演壇上でのアクリル板設置、ソーシャルディスタンス確保を目的とする座席配置、更衣室

での人数制限等も行ってきた。さらに、感染対策の啓発として、感染対策ポスター貼付、COVID-19の現状についての講義を新入生に行ってきた。

感染者（疑）への対応としては、当初より相談窓口を設置し、学生の相談にに応じている。直接 COVID-19に関する事だけではなく、大きく変化した学びの環境変化によるこころの不安等にも対応できる学生相談室もあり、身体的・精神的にも学生へのフォローを行なっている。

学内での PCR 検査・抗原検査を整備し、濃厚接触者（疑）や実習前の学生への検査を行なっており、安心して演習、臨地実習を行なえる環境を確立・維持している。

今現在まで学内でのクラスターは発生していない。このようにクラスターをおこす事なく学生へ学びの場を提供できているのも、上記のような感染対策の主旨を理解し、実践してきた学生および教職員の皆さまのおかげである。あらためて皆さまには感謝の意を表したい。

これから先もよめない感染状況に対して、臨機応変に感染対策を続けていく。今後ともご協力をお願いしたい。



●ハラスメント対策について

ハラスメント対策委員 小菅 優子

本学では、ハラスメント防止・対策に努めるために、本学ホームページやパンフレットへの掲載による啓発活動や研修等を行っています。

全教職員を対象とした研修会は、ハラスメント防止の理解を深める内容に焦点を当て実施しています。また、相談窓口担当者を対象とした研修会は、実例に基づいたロールプレイを取り入れ、傾聴力の向上を図っています。

今年度の委員会では、相談員の対応の仕方などを取り入れた「相談員マニュアル」の改訂に取り組んできました。今後も、ハラスメントのない、ハラスメントに対策が取れる環境を学生・大学院生・教職員に提供できるよう努めていきます。

学友会親睦運動会

8月5日(金)、学友会主催の親睦運動会を行いました。

8月ということで、企画の段階から熱中症への対策も考慮しながら、何度もプログラムを考え直し、念願の開催となりました。

当日は、アイスブレイクと障害物競争を体育館で、ビンゴ大会は教室で行いました。

最初はチーム同士もぎこちない感じでしたが、ビンゴ大会が始まる頃には全員楽しそうな表情が見られました。

まだまだ制限もありますが、学生にとって思い出となるようなイベントが開催できたことを嬉しく思います。



クラブ紹介

ランサークル

看護学科四年 三田 尚果

8月6日(土)に、四日市で開催されたSUMMER NIGHT RUN の3時間リレーマラソンに出場しました。私自身マラソンイベントに参加するのは初めてであったため、楽しみと不安とがありましたが、ランサークルのメンバーや先生方と楽しく襷を繋ぎ、3時間走りきることが出来ました。

大学最後の夏に学年を超えて交流できたと共に、楽しいメンバーとリレーマラソンに挑戦できていい思い出になりました。



顕微鏡愛好会

臨床検査学科二年 鈴木 里喜

僕たち顕微鏡愛好会は今年度新設されたサークルで、主に臨床検査学科の学生が所属しています。活動はB1実習室を使用して、メンバーのやりたいことを募集し、組織の染色、細菌の培養や同定、テスト期間には勉強会などを行っています。

活動回数はまだ少ないですが、病理学や微生物学に関して、実習ではできないことや、設備の操作の練習、気になったことを積極的に解消するという場として、楽しく活動していきます。



オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、6月12日(日)、7月23日(土)、8月8日(月)に行われました。今年も学科ごとに定員を設け、事前予約制とし、感染症対策が徹底される中での開催となりました。

当日は、両学科の会場ともに学長の挨拶から始まり、四日市市健康福祉部次長から本学の支援制度などをお話いただき、入試広報室より大学の概要や入試の説明を行いました。その後、模擬講義や実習体験、個別相談へ自由に参加していただきました。個別相談や先輩と話そうのコーナーでは、入試、奨学金についてだけではなく、実際の学生生活などを熱心に質問する参加者でにぎわっていました。

参加された方からは「先生や先輩がとても丁寧に優しく教えてくれた」「看護師や臨床検査技師についてより理解を深めることができた」という声が聞かれました。

オープンキャンパスを通じて本学の魅力を感じていただき、今後の進路や目標を決めるきっかけになればと思います。



高大連携について



令和4年度の暁高校との高大連携事業は、3年生15名(看護医療コース選択者+希望者)が7月6日に来校して大学講座体験を実施しました。看護学科では、『大人と新生児の違いを知る!』と題して、聴診器を使って新生児の呼吸・心拍を測定し、自身の測定値と比較したり、授乳や抱っこなど新生児の日常生活支援を体験。臨床検査学科では、超音波検査、がん細胞観察、血液型検査など、さまざまな臨床検査技師の仕事を体験していただきました。

参加された生徒の皆さんは体験中、大学の教員や在学生に指導を受け、緊張しながらも、楽しそうに学ばれていました。

この高大連携事業では、高校生の方に大学での学びを経験することを通じて、看護医療系の学びを深め、進路選択の幅を広げる機会となることを目的としています。暁高校から本学あるいは医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も高大連携事業を推進していきたいと考えます。

四日市看護医療大学 看護学科
2021年度(2022年3月)卒業生

就職・進路状況

就職率 100% 4割が公務員に!

2021年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。新型コロナウイルスが確認されてから2年、オンラインでの授業や実習等制限された学生生活の中、4月から6月までに48%が、10月には88%以上が内定を得る結果となりました。

この時期、ゼミ講義、統合実習、国家試験対策等多忙を極める学生ですが、この流れに乗り遅れないよう、また、主体的な就職活動ができるよう、本学はアドバイザー教員を中心に全学的な体制で学生をサポートしています。

- ◆全体の40%が地方公務員となり、独立法人化された準公務員なども含めると8割が何らかの公的医療機関に就職を果たしました。このことから依然として公務員や公的な職場への人気の根強さが窺えます。
- ◆地域別では、**地元三重県への就職者数が54%**となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。
- ◆**実習先病院には、46%が就職**しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。



国家試験合格率

- 看護師：99.1%（受験者111名/合格者110名）
- 保健師：92.7%（受験者 41名/合格者 38名）
- 助産師：100%（受験者 8名/合格者 8名）

2021年度 看護学科就職・進路状況 (2022年3月卒業者)

卒業生		111人
就職	就職希望者	108人
	就職者	108人
	就職率	100%

※就職希望者数は、卒業生のうち国家試験不合格者、就職意志のない者を除く。

都道府県	就職先	人数
三重県	市立四日市病院	36
	みたき総合病院	2
	三重県立総合医療センター	4
	小山田記念温泉病院	2
	四日市市（保健師）	1
	三重県（保健師）	1
	三重大学医学部附属病院	3
	JA三重厚生連 菰野厚生病院	2
	JA三重厚生連 鈴鹿中央総合病院	1
	JA三重厚生連 松阪中央総合病院	1
	国立病院機構 三重病院	2
	国立病院機構 三重中央医療センター	3
	桑名市総合医療センター	3

都道府県	就職先	人数
三重県	鈴鹿回生病院	2
	村瀬病院	1
	済生会松阪総合病院	2
	済生会明和病院	1
	伊勢赤十字病院	1
	名張市立病院	1
三重県 集計		69
愛知県	JA愛知厚生連 海南病院	2
	津島市民病院	1
	JA愛知厚生連 豊田厚生病院	1
	刈谷豊田総合病院	1
	一宮西病院	2
	小牧市民病院	1
	大同病院	2
	名古屋市立大学病院	6
	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院	5
	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院	2
	名古屋済済会病院	2
	名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター	1
	名古屋共立病院	1

都道府県	就職先	人数
愛知県	藤田医科大学病院	1
	藤田医科大学病院 岡崎医療センター	2
愛知県 集計		30
岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	1
	大垣市民病院	1
	聖十字病院	1
岐阜県 集計		3
静岡県	聖隷福祉事業団保険事業部(保健師)	1
静岡県 集計		1
東京都	東京医科歯科大学病院	1
東京都 集計		1
大阪府	関西医科大学附属病院	1
	大阪赤十字病院	1
大阪府 集計		2
京都府	京都第二赤十字病院	1
京都府 集計		1
長野県	大町市（保健師）	1
長野県 集計		1
合計		108

◀▶ 大学院修了生が専門看護師試験に合格しました。▶▶

令和4年10月に行われた急性・重症患者看護専門看護師試験にて、大学院専門看護師コース（急性・重症患者看護）を令和3年度に修了した社内友恵さんが合格いたしました。

現在、社内さんはいなべ総合病院のHCU（高度治療室）で勤務されており、本学で学んだ知識を大いに活用して現場に還元されることを期待します。

さらに、勤務先にとどまらず、地域の急性期看護のレベルアップに貢献していただければと思っています。

本学大学院からは社内さん合わせて7名の専門看護師が誕生しています。

この度は誠にありがとうございました。

令和4年度 宮崎徳子奨学金・長江拓子奨学金授与式

7月13日（水）、宮崎徳子奨学金および長江拓子奨学金授与式を行いました。

宮崎徳子先生は開学以来学科長、学長補佐など数多くの役職を歴任されるなど、本学の発展にご尽力いただいております。長江拓子先生は本学で教鞭をとられた後、顧問としてお力添えをいただきました。両先生から頂戴した寄付金を基に創設されたこれらの奨学金は、本学の学生がより一層学習意欲を高め、看護専門職業人となる人材の育成に資することを目的としています。

学業成績、本学および社会への貢献などから審査し、看護学科4年生4名、3年生3名、2年生1名の計8名の学生が奨学生として選出されました。

授与式では、柴田学長から賞状と奨学金が授与され、宮崎先生から激励のお言葉を頂戴しました。奨学生の方々の、さらなる活躍を期待します。



学校法人暁学園創立75周年



宗村佐信初代理事長

暁学園は令和3年6月20日に創立75周年を迎えました。幾多の苦難を乗り越え、今日、学園があるのは、6万人を超える卒業生、ご家族の皆様、関係者、四日市市、三重県、地域の皆様のご支援の賜物に他なりません。学園教職員一同、深甚なる感謝を申し上げます。

学園の歴史は、終戦の翌年に宗村佐信初代理事長が開設した県下初の私立女子高等教育機関「暁女子専門学校」から始まります。初代理事長の下、学園綱領「人間たれ」を掲げ、わずか4年間で幼稚園から短期大学までが揃う総合学園の地歩を固めました。宗村南男第三代理事長の時代には、中高一貫校の発足、高校の共学制復活、四日市大学と四日市看護医療大学の開学など、さらなる発展を遂げました。

学園教職員一同は、100周年を見据えながら、学園創立者の願いに立脚し、学園の総力を結集して普遍的使命を果たし続けていく決意を新たにしております。今後とも末永くご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年度 学位記授与式

令和5年3月11日（土）10時

都ホテル四日市において挙行する予定です